

する」という意識をしっかりと持って欲しいと願っています。そして、利用者自身も自分自身に力をつけていくという意識を持ち、ヘルパーさんや家族、周りの人たちにアピールしていかないと、いつまでたっても、一人の人間、社会の一員として、対等に付き合えないでしょう。そういう関係が出来ていかなければ、障害者が地域で生きていく意味はないと私は考えます。だって、地域に出てきても、甘えたり、やってもらっているからって遠慮したりしているのって、施設や親元から地域と言う「場所」が変わっただけで、その人自身の中身は変わってないってことですよね。

でも、「がんばって」変わる必要はどこにもありません。むしろ『がんばる』つもりは、さらさらありません。ただ私は、『あくまでも私の人生の主演は、私であり続けたい。』そう思います。

楽

しいSTEPえどがわと僕の日常生活話第2話

鈴木 正典

僕は、たまに、病院に行くときヘルパーさんといっしょに、病院まで行ってもらっています。ヘルパーさんがいたら都バスの、乗り降りがとっても、楽です。僕は、そんなヘルパーさんたちに、かんしゃしています。

